

岡 病 防 第 14 号
令和 7 年 8 月 28 日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 6 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 7 年度病虫害発生予報第 6 号

令和 7 年 8 月 28 日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — — —	やや少 並 並 やや多 並 やや少
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 並 並 並 やや少
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — やや早	やや少 やや多 やや少
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 やや少 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 並 やや多 やや少
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	並 — —	並 やや多 並
アブラナ科 野 菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	並 やや多 やや多 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並である。

イ. 8月14、15日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生ほ場率は16.7%で、平年(43.1%)より低かった。

ウ. 8月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14、15日の巡回調査によると、発生ほ場率は20.0%で、平年(34.5%)よりやや低かった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14、15日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月14、15日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生ほ場率は27.1%で平年(18.7%)より高かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より少ないと考えられる。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における誘殺は認めておらず、8月1半旬～4半旬の平年(1.6頭)より少なかった。

イ. 8月13、14、15日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（8.0%）より低かった。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。
条件ではない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は775頭と平年（1153.0頭）よりやや少なかった。

イ. 8月13、14、15日の巡回調査によると、白化葉の発生ほ場率は1.9%で平年（2.1%）並であった。

ウ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、アオクサカメムシが0頭で平年（6.5頭）より少なく、イチモンジカメムシが2頭で平年（16.5頭）より少なかった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅
発生量 やや少
予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は0頭で平年(0.3頭)よりやや少なかった。

イ. 8月6日の県南部における巡回調査では発生を認めず、平年(0%)並であった。

(2) ハダニ類

予報内容
発生量 **やや多**
予報の根拠

ア. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生ほ場率は50.0%で平年(16.8%)よりやや高かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 収穫後であっても、夏から秋にかけて多発すると、落葉しやすくなり、次作の果実の品質に悪影響する恐れがあるため、今後の発生に注意する必要がある。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容
発生時期 **やや早**
発生量 やや少
予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査では第2世代成虫の発生を認めず、発生ほ場率は、平年(1.8%)よりやや低く、発生程度は平年並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 近年は、ウメシロカイガラムシと外観および被害が類似するが、発生時期が異なる近縁種のクワシロカイガラムシが優先しているほ場もある。防除が困難な場合は、優占種を把握する必要がある。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容
発生量 並
予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査における発生ほ場率は54.5%で、平年(48.6%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容
発生量 やや少
予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生ほ場率は72.7%で、平年(92.7%)よりやや低かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量

は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) さび病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で、平年(16.0%)よりやや低かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野 菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は66.7%で、平年(58.5%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発 生 量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は50.0%で、平年(51.0%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 炭疽病

予報内容

発 生 量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は66.7%で平年(29.8%)より高かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) うどんこ病

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は33.3%で平年(71.5%)より低かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量

(トマト)

予報内容

發生量並

ア. 8月21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(1.3%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

予報内容

發生量 やや多

ア. 8月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

予報内容

並 發 生 量

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は33.3%で平年(43.8%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

発 生 量	アブラムシ類 モザイク病	並 やや多
-------	-----------------	-----------------

ア. 県予察ほ場（赤磐市）の黄色水盤における８月１半旬～４半旬の飛来数は８６頭で、平年（１４１.７頭）より少なかった。

イ. 8月19日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生は場率は0%で平年(4.5%)並であった。

ウ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでのモザイク病の発生ほ場率は50.0%で、平年(13.5%)より高かった。

エ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

予報内容

発生量 **やや多**

ア. 県予察ほ場（赤磐市）における８月１半旬～４半旬のフェロモントラップの誘殺数は７頭で、平年（１．５頭）よりやや多かった。

イ. 8月19日の巡回調査によると、ダイコンでの発生ほ場率は33.3%で平年(42.6%)並であった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月18、19日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生
は場率は25.0%で、平年(32.2%)並であった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量
は平年並か少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早
期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効
である。

ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、
薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キ ク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月18、19日の巡回調査によると、発生は場率は75.0%で、平年(21.4%)よりやや高かった。

イ. 8月21日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量
は平年並か少ないとされており、本虫の増殖をやや助長する条件であ
る。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

